

## スーパーグローバル大学創成支援事業 中間評価結果

大 学 名	慶應義塾大学
整理番号	A12
構 想 名	「実学（サイエンス）」によって地球社会の持続可能性を高める

### ◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

(総括評価)  <b style="font-size: 2em;">A</b>	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
(コメント)	<p>本構想は、国際的な競争力のある分野の様々な研究・教育活動を「長寿」、「安全」、「創造」の3つの重点領域である「クラスター」に集結・深化させることにより、国際的な発信力の強化や研究力の向上、世界を舞台に活躍出来る人材の育成を目指すものである。</p> <p>大学のグローバル化を推進するための基盤として、文理融合領域横断研究プラットフォームである「Keio University Global Research Institute (KGRI)」を設立し、3つのクラスターを中心とする教育研究プロジェクトや学内外の研究機関等との連携、成果の発信等を効率的に実施している点や、全学部・研究科共通外国語プログラム「Global Interdisciplinary Courses (GIC)」の開設により、国際的かつ学際的な人材育成のための取組が成されている点は評価に値する。</p> <p>また、塾長をトップとするスーパーグローバル事業本部や海外の著名な研究者を含むグローバルアドバイザーカウンシルの設置等のガバナンス面での組織構築、クロス・アポイントメント制度を活用した海外副指導教授の積極的な採用など、グローバル人材養成のための全学的な取組が順調に行われている。</p> <p>加えて、財政支援期間終了後の恒久的な事業継続のため、「スーパーグローバル大学創成支援事業基金」を新設し、理事会で定めた目標額に対して計画どおりの自己資金を組み入れるなど、安定的な財源確保に向けて着実に取り組んでいる点も高く評価出来る。</p> <p>一方で、目標の達成状況については、大学間協定に基づく受入外国人留学生数や外国人職員等の割合、外国語力基準を満たす学生数など、数値目標に達していない項目がいくつか見受けられる。アカデミック・パスについては、博士課程教育リーディングプログラムを対象とする5年一貫制課程が実施されてはいるが、早期卒業制度等は未だ検討段階にあることから、改善策の策定や本事業の特性を活かした柔軟なシステムの構築が求められる。</p> <p>今後、本構想における多様な試みによる成果を客観的に評価出来る仕組み作りも含め、他大学の模範となるような取組が展開されることを期待する。</p>